

回想

昭和五年—九年頃を

記るしてみやう

十二時の汽笛、係は

秒を、よむ

野良仕事

汽笛が鳴つて

昼を知る、

聞えるか

あの娘の胸に

此の汽笛、



毎日正午
前まえ工場の
汽笛が鳴った

小此木兄弟商会

徒弟

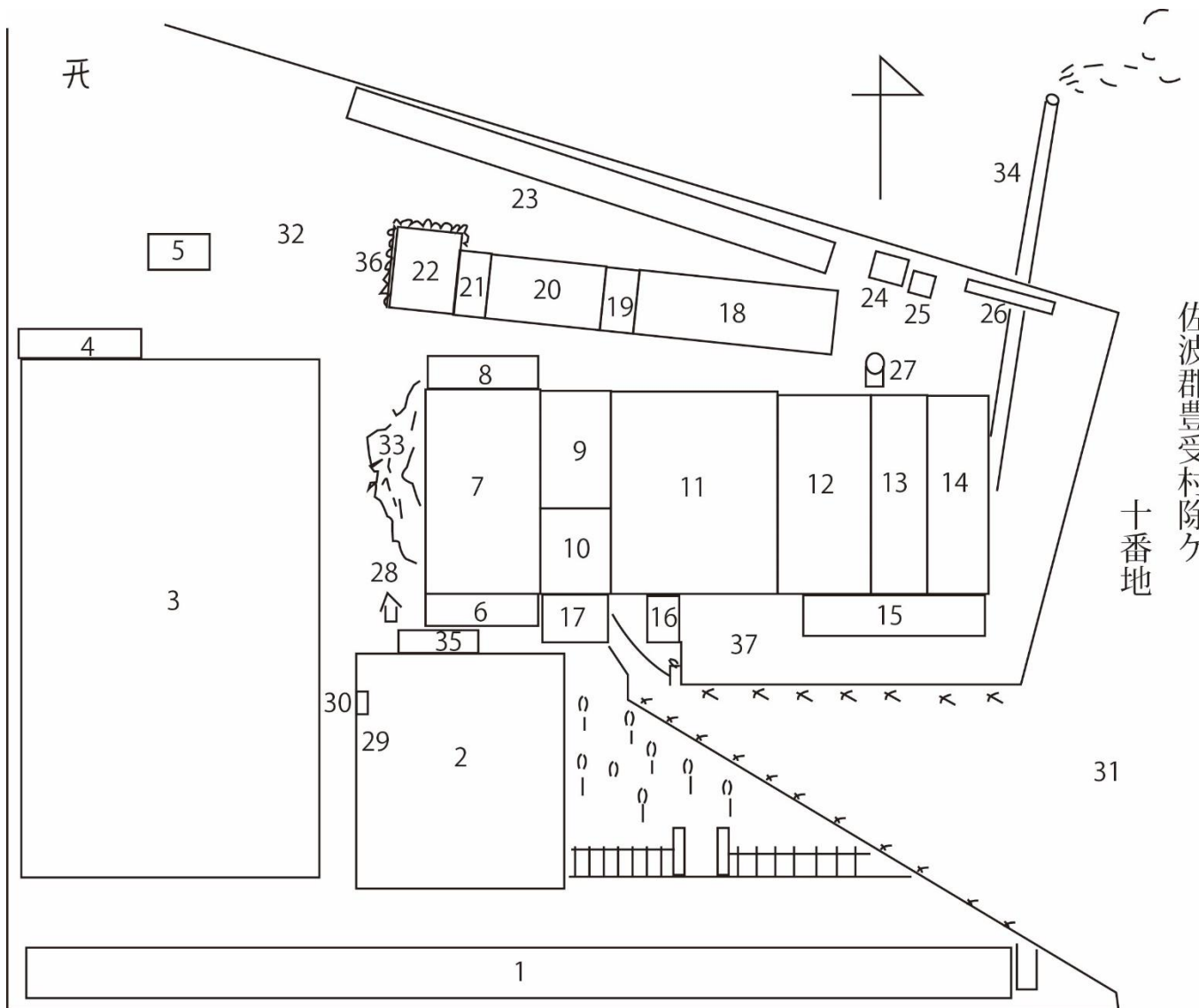
小此木茂利

十九才

昭和天皇大喪の礼を機に

昭和九年群馬縣下、陸軍特別大演習の際、

小此木兄弟商会の製品、献上品、天覧品、の栄誉を
 たたえ、当時の思い出をしるす。



佐波郡豊受村除ケ

十番地

- 1, 乾燥場(張場)
- 2, 徒弟寄宿舎
- 3, 捺染加工部
- 4, 形紙置場
- 5, 試験室
- 6, 原料室
- 7, 奥裡部室
- 8, 付屋
- 9, 柄書、組込室
- 10, 帳場
- 11, 整理部
- 12, 染色部
- 13, コルニシュールボイラ室
- 14, 多管式ボイラー室
- 15, 横棒捺染液作り機巻
- 16, 自転車小屋
- 17, 玄関
- 18, 食堂
- 19, 食糧倉庫
- 20, 徒弟寄宿舎
- 21, 寢室
- 22, 寢室(新屋)
- 23, 水洗場
- 24, トイレ
- 25, 豚小屋
- 26, 漬物小屋
- 27, 水タンク
- 28, 蒸し釜
- 29, トイレ
- 30, トイレ
- 31, テニス場、野球場
- 32, ラヂヲ体操場
- 33, 中庭
- 34, 煙突
- 35, 乾燥場
- 36, 地下室
- 37, 物干場

組織

平八郎

六郎

社長 — 専務 — 幹部 — 工員

原料の仕入	人事、設備	作業指導
金融販賣	教育外交	教育被服
外交	研究	食事給与
		作業

工場内務規定

当番

宿直 — 上番 — 甲週番 — 乙週番

— 幹部 — 兵隊検査以上 — 二十一才迄 — 入社より二年

規則

1. 第一日曜、第三日曜は休日、旅行春、秋二回、被服支給、食費無料
 2. 新入社は工業学校の夜学に通ふこと、
 3. 週番交替は厳正に申し送りをする事、
 4. 幹部は、シスの上つ張りを着用、工員は作業服を着用のこと
 5. 乙週番は（炊事番）専用の自転車を使用すること
 6. 許可無きに夜の外出は嚴禁、女性との文通を禁ず
 7. 各所に火取締り責任者の氏名を明示、同列の者には親和を計り、上位者には服従するものとす、従つて一日でも早く入社したる者には敬意を表し〇〇さんと呼稱する、
 8. 毎週の甲乙当番きめは、幹部が週番帳に記入して発表、乙は炊事当番を担当、甲乙共一時間早く起床して甲はボイラー、乙は作業無し、
 9. 他の甲乙級の者は起床と共に分担の掃除域をきれいにし、全員のラヂヲ体操場に集合、朝食は其の後とする、作業終了後は甲は戸締りをする、
 10. 上番者は、下位の者を指導して、日曜日には来客の接待、電話当番及び自転車トイレの掃除の点検、寄宿舎内での教育に当る
 10. 夜九時になると、全員の点呼を行い異状の有無を宿直に報告す、
 11. 宿直者は社長代理と心得え、下位を把握指導す、万一の場合は、全員の指揮に当る（火災、盗難、水害、病人）
- 週に一度は日記帳の点検を行ふこと、

工場内の設備

一、整経部

縦糸整経機 二台 糸繰機 二台 (ボビン三〇並び)
横糸整経機 一台 横糸繰り機 一台 假織
棒捺染は外注

二、染色部

蒸気二重釜三ヶ、小一、精練釜一、コンクリート製一、
媒染釜 (銅製) 一、ヒュガルポンプ一、脱水機一、水洗場一、
糊付用具一式、試験蒸し器二、棒捺染液入六〇ヶ、石油コンロ二、
染料配合室一、染料は主にドイツ及びスイスより原封 (?) を使用、媒
染はクローム明礬、精練は炭酸ソーダ、助剤は醋酸、抜染剤はハイドロ
サルハイト、捺染液の助剤は醋酸クローム、白明礬、
染色部の倉庫保管水飴三十缶 (?)、布糊十五貫づつ買入、ゼラチン
一俵、コンスターチ一俵、アラビヤゴム糊一缶 (?) は用意、外にロー
ド油、ダビットオイル

三、ボイラ室

コルニツシュ式一基、彗管式一基、交互に使用 (一級免許)
石炭は常盤炭鉞の中魂 (?)、米の空き俵で馬車にて運搬
毎年定期検査が行はれるが、内務省技士が巡查と同行、掃除は十日位
かけて乙週番級が二三人でやる、ネヂ切り機具一式、ボイラ内部掃除
器具一式準備してある (配管用)

四、捺染加工部

当時最新式鋸り形屋根天上より明り取り窓作り加工板が六枚、西の室
に四枚、形紙洗いタンクは温水に使用、一枚板に一缶 (?) づつ加工
の下には一吋の蒸気パイプ、冬でも寒くない様になっている。配合染
は還元剤を用いるため塩基性 (?) が使はれていて亜鉛末デキストリ
ブランキットの抜剤飴を入れた糊をへらで加工する。最後に粟
(?) ぬか仕上げで乾燥したものは地下室で一番 (晩) 湿気をととり、次
朝蒸し釜で抜きうつしの化学作用の工程に移る、

五、水洗場

二疋掛けを直線に流して洗えるコンクリート製の水流場は裏の川より水を取り入れ、形の部分の糊と余分の染料を落とし、其の後醋酸仕上げで張場で乾燥した後機巻の工程へ廻す

六、張り場（乾燥場）

天日乾燥場と屋内乾燥が二ヶ所あつたが主として屋内が使用された、長い長い立物で屋根はガラス張り下には二吋（インチ）の蒸気パイプが二本通っていて両側に長いたれ幕が張られ効率を考へた。此れで曇天日、雨天日共、作業能率関係なし

七、研究室

作業の変化、方法、新染色法、色の試験、薬品、器具の試験

八、自轉車

当時は自轉車が唯一の機動力、専務一、織子廻り四、運搬車一、幹部

用

四、普通車四、乙週番用一、外に二、車（買入修理は奥野）

九、購入品

研究作業に必要な薬品及器具は、本庄の酢屋、染料は劍持、松浦、米は社長より小此木米店經由で入荷、食料品は木村屋や角店より、野菜は彦賀谷庫吉氏より帳簿事ム用品はタマキヤ、被服の補給は幹部の人が相談して此れを行ふ

十、食堂

乙週番炊事係はエプロン掛けでいた

米、汁の煮炊き用の蒸気釜大小共一ヶづつ、茶釜一、洋食器具類一揃食事する足元一吋のパイプが通っていて温く、幹部、職人、徒弟、来客、三食共々仲よく食事（当時は物を賣りに来た人も食事をし、一日に一人以上は来客があつた。）

十一、浴場、洗面所其の他

白、タイル張り蒸気湯一度に六名並んで入れる。理髪師は月一回出張す。トイレ四ヶ所、残飯整理に豚一匹飼育、鳩二十羽、犬一匹

十二、外注

織機工場Ⅱ縦糸に模様をつけて横糸は無地を織る（解ホグシほぐし）

第一工場 小此木利一、第二工場 平田一平、第三工場 平田連一郎

第四工場 平田次好、第五工場 境町にあった

併用併 手織三〇〇台、附近一帯武州の広木迄伸びていた

引込、箆台返し、機巻き

横糸併り縛り家、棒捺染をする

堀口の吉田次郎（五人使用）武州木村光次（三人使用）

富塚渡辺国三郎（二人使用）富塚新井又次郎（三人使用）

戸谷塚五十嵐勝蔵（三名使用）の五軒

型紙彫鈴木さんは足利、織り上った品の整理も中央社、金銀糸購入も

足

利に縁があつた。中央社員はオート三輪でやって来た。

鉄工所の出入は久保田鉄工、櫻井鉄工、大工は武州の富さん、来客

の場合精（？）心軒が利用されていた

次に工員の教養、娯楽及び社会に及ぼす影響

一、 毎朝ラヂヲ体操に集合する前に会社内にある氏神様を礼拝した、旅行の春秋二回は外注の仕事をしている者も一緒に見聞を広めることにした。其の費用は全額会社負担であつた

二、 日記帳が年の始に全員に渡り、此れを書くのが大人になって役立つと週に一度は幹部より検査をされ検印が捺された

三、 兵隊検査（二十一才）になると、年明けと云うて特別被服夏冬物の支給があり、此れより一人前となり、独立は自由の身になる。寝具は会社負担ではあるけれども、破れ物は裁縫が出来る様に針糸は一人々小物具としてもっていた。新入社員の工業学校の夜学通ひは小此木兄弟商会の名入れ提灯下げて自轉車で名入れの雨傘をさす

四、 ラヂヲ一、蓄音機一は流行歌、洋楽、浪曲、新しいものは次々に購入、運動具Ⅱ野球具一式、庭球具一式、ピンポン、高跳、鉄棒、オルガン、ヴィオリン、ハーモニカ、腕時計は自分で買ふ。医料は会社で負担した

五、日用品は、すべての品々を市價の半額で購買する。盆一日、正月の三日、第一日曜、第三日用は自由であるから実家を訪れる者もあり、町へ映画を見に行く者もあり、其の時の服装は今では笑い事かも知れぬが平気であつた。下駄、ゴムの短靴、ツメ襟の服、夏はコンコツ帽子、十八、九才になると、生意気になり中折帽子で町を歩き廻り十銭でカフエーで平気で寄れ、帰りに支那そばなどたべると三日も美味かつた。

六、俗に云う軍隊様式であつたが、よくも今考へ見ても宜しかつたと私は思ふ。社会的の評価は二十一年才になると、家を一軒立てる貯金帳を所有しているので婿にと望む者は数知れぬことで證明出来たと思ふ。ボイラーから出る石炭ガラは除ケ、富塚方面の道ぶしんに寄贈したので此れ又好評価、附近の道路は、自転車が乗り良かったので有難かつた声多し。織る人には懸賞を付けて月に何疋織ると一反と、賞を受ける日は大変賑かになる。当時織子を三人持つと倉(蔵)が立つと云うことは事実であつた。

八、献上天覧
伊勢崎銘仙製造者(昭和四年、機業約一、〇〇〇戸、手機数二五、〇〇〇台)中(機家)献上品(鶴)、天覧品(菊)を指令されたのは当初は勿論小此木一門の名誉でありました。当時工場は内務省の警察で大多勢者の織子中家系迄、特高警察が調べ上げ一度でも男の人の手を握つたと云う人は皆除外されたのでありますが、其中で厳選されて三名が選定され、縄を張り巡らし織り上げる迄外出禁止、毎日巡查や刑事が様子を見に来ていた。又工場内で働く全員は検便し染色にたづさわる者は特に身を清め、染料配合に当っては手がふるえる心知であつた。斎戒沐浴とは此の事かと思ふ。

後記Ⅱ此の記は私の記憶であつて、其の外
重大なことが沢山あつたと思ふが
ほとんど人が現在故人になられ愚者
一人の思ひ出の記で誠に申しわけな
く思つて居ります。

解併用大絣（伊勢崎織物同業組合史より）

「解併用大絣」は大絣の変化発達したるものと認むることを得べく、大正七年七月我が伊勢崎に於て研究完成せるものにして、大絣に於ては経緯共同一の目色を交叉組織し鮮明なる模様を明瞭に描出し得るも、製織上柄崩れを恐れ細線、曲線を現はすこと困難にして寧不可能に属す。又解織に見るが如く細線曲線は任意に然も容易に製織し得るも、緯糸に無地糸を織るが故に色相の鮮明を欠く欠陥あり。茲に於て解の方法を以て経糸に模様を顕し、大絣の方法を以て緯糸を作り、之等経緯の模様を合致せしむる様考案せられたるものにして、初めは経緯の模様容易に合致せず数度失敗を重ねつつも益々研究を続けたる結果、経糸を解し織の方法に基づき捺染する場合、型紙に横に動く位置を一定するため経糸の中央に標準糸を設け、之を定規として型付の場合型紙の位置を定むる工夫を小此木平八郎氏によつて発見せられ、之によつて成功を見るに至り如何なる構図の模様も明瞭に且鮮明に製織せられ複雑せる時代の要求に応ずることを得るに至り、所謂一大進展を示せるは伊勢崎産地の誇りとなすべき処なり